

Ki-67 distribution, AMACR expression, and mucin phenotypes are associated with non-polypoid growth in ulcerative colitis-associated neoplasia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡野, 荘 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002939

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2624 号

A Novel Diagnostic Score System Differentiating Ulcerative Colitis-associated Neoplasia From Sporadic Adenoma/Intramucosal Adenocarcinoma by Using Immunohistochemical Detections of Neoplastic Factors

潰瘍性大腸炎関連腫瘍と散発性腺腫/粘膜内癌の鑑別のための免疫組織化学染色を用いた新規診断スコア

岡野 莊 (おかの そお)

博士 (医学)

論文内容の要旨

潰瘍性大腸炎関連腫瘍(以下 UCAN)は組織学的に散発性腺腫/粘膜内癌(以下 SA/A)に類似するものが存在する。これらの組織学的に類似する病変が内視鏡的に切除された場合、病理学的に鑑別する方法は十分には確立されていない。我々の研究は、この潰瘍性大腸炎(以下 UC)を背景とした大腸に出現し内視鏡的に切除された粘膜内病変が UCAN であるのか、SA/A であるのかを鑑別する手法を作成することを目的とした。

我々は 2011 年～2020 年の期間で当院および東京山手メディカルセンターにおいて大腸全摘術で切除された 25 例 35 病変の UCAN の粘膜内病変と、2020 年に UC を背景に有さず内視鏡的粘膜下層剥離術で切除された 71 例の SA/A を比較した。p53 の陽性率、Ki67 陽性細胞の腫瘍腺管内での分布、 α -Methylacyl-CoA Raxemase(以下 AMACR)の発現、 β カテニンの核内発現の有無、粘液形質(MUC2、MUC5AC、MUC6、CD10)を免疫組織化学染色で評価した。上記項目に対してロジスティック回帰分析で統計学的に有意に UCAN と SA/A を区別する項目を抽出し、得られた偏回帰係数を係数とし、統計学的に有意な項目を足し併せた診断スコアを作成した[診断スコア=(p53 発現)×3+(Ki-67 陽性細胞の腫瘍腺管内の分布)+(AMACR 発現)×5+(粘液形質)×2]。

UCAN 群は SA/A 群より統計学的に有意に p53 陽性率が高く、Ki67 陽性細胞の腫瘍腺管内での分布が深部パターンを呈し、AMACR の発現が陰性であり、粘液形質は Non-intestinal phenotype であった。統計学的有意差を認めた上記の 4 項目を組み合わせた診断スコアは、各項目単独より正確に UCAN を予測できる結果となった(感度：65.7%、特異度：94.4%、陽性的中率：85.2%、陰性的中率：84.8%)。

UCAN と SA/A の腫瘍形成の相違を組み合わせた診断スコアは、各項目単独より正確に両者を鑑別することが可能となった。この診断スコアは UC を背景とし、内視鏡的に切除された粘膜内病変が UCAN なのか、SA/A なのかを鑑別することに役立つと考えられる。さらに、この結果は内視鏡治療後の再発率を考える上で有用と考えられる。